

第7章 産業廃棄物

第1節 産業廃棄物の排出・処理状況

産業廃棄物とは、事業活動に伴って生じた廃棄物のうち、燃え殻、汚泥、廃プラスチック等の20種類のことをいいます。このうち、爆発性、毒性、感染性などにより、人の健康及び生活環境に被害を及ぼすおそれのある産業廃棄物は、特別管理産業廃棄物として定められています。

これらの産業廃棄物は、排出した事業者が自らの責任において、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（以下「廃棄物処理法」という。）に定める基準に従い処理しなければなりません。また、その処理を他人に委託する場合は、廃棄物処理法上の許可を有する業者に委託しなければなりません。

1 種類別排出量・割合

平成24年度に市内の主な事業場等が排出した産業廃棄物の量は約42万7千トンです。

排出量を産業廃棄物の種類別に見ると、汚泥が全体の41.2%を占め最も多くなっており、以下、ばいじん21.0%、燃え殻20.8%と続き、これら3種類が全体の約8割を占めています。

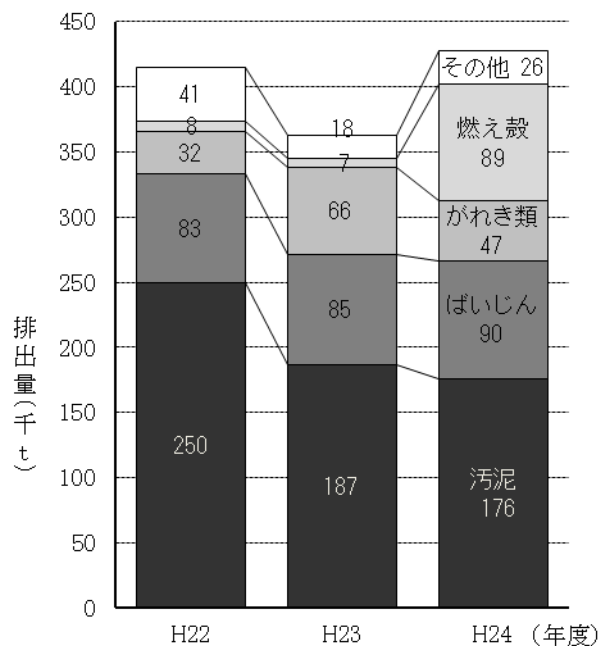


図7-1-1 排出量の推移

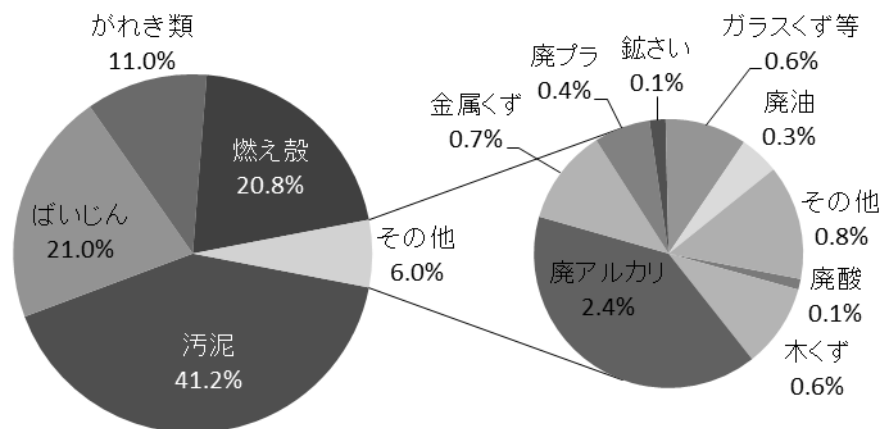


図7-1-2 種類別排出割合
(総排出量: 427,472 t)

2 種類別処理実績

排出された産業廃棄物のうち、83%に当たる36万トンが排出事業者又は産業廃棄物処理業者によって中間処理（脱水、焼却など）されています。また、排出量の5%に当たる2万トンは中間処理されずに再生利用され、1%に当たる7千トンは中間処理されずに直接埋立処分されています。

表7-1-1 産業廃棄物の種類別発生量と処理実績 ※1 (単位：t)

廃棄物の種類	発生量	保管量	排出量	排出量内訳						
				再生利用			中間処理		最終処分（埋立）	
				自社処理	無償譲渡	有価売却	自社処理	業者委託	自社処分	業者委託
1 燃え殻	88,626	22	88,604		44	1,360		87,175		3
2 汚泥※2	176,355		176,355		2,194	5,562	50,303	69,034	17	6,947
3 廃油	1,232		1,232		9	46		1,177		
4 廃酸	336	1	335					334		
5 廃アルカリ	10,374	2	10,372					10,370		
6 廃プラスチック類	1,748		1,748	50	100	34		1,405	1	158
7 紙くず	384		384		28	269		86		1
8 木くず	2,595		2,595		200	1,185		1,210		
9 繊維くず	58		58					57		1
10 動植物性残さ	883		883					883		
11 動物系固形										
12 ゴムくず										
13 金属くず	2,984		2,984		8	1,596	16	1,362		2
14 ガラスくず等	2,593	55	2,538					2,398	6	79
15 鋳さい	504	4	500					496		
16 がれき類	48,624	1,807	46,817	2,585		3,376		38,874		175
17 動物のふん尿										
18 動物の死体										
19 ばいじん	90,328	508	89,820					89,301		11
20 13号廃棄物										
21 その他	2,247		2,247		4	1,672		558		13
合計	429,871	2,399	427,472	2,635	2,587	15,100	50,319	304,720	24	7,390
				20,322			355,039		7,414	

※1 市内大手70社の集計

(平成24年度実績)

※2 汚泥発生量の把握時点は以下のとおり

- ①製品の生産工程中に脱水・乾燥工程が含まれている場合：その脱水・乾燥工程の後の重量
- ②廃棄物の処理を目的とした汚泥の脱水・乾燥施設である場合：脱水・乾燥前の重量
- ③施設から脱水・乾燥等の工程を経ずに発生する場合：発生時点での重量

第2節 産業廃棄物処理施設

事業者が産業廃棄物を処理する最終処分場（埋立処分場）及び一定規模以上の中間処理施設を設置する場合は、市の許可が必要です。

1 処理施設の種類の設置数

平成25年3月31日現在、設置許可を有する産業廃棄物処理施設の数は51施設（最終処分場9施設、中間処理施設42施設）です。（表7-2-1）

平成24年度は、がれき類の破碎施設で移動式1施設、固定式1施設が新たに設置許可を取得しました。

表7-2-1 産業廃棄物処理施設設置数

施設の種類		設置数
汚泥	脱水施設（移動式）	4
	脱水施設（固定式）	6
	焼却施設	2
廃油	油水分離施設	1
廃プラスチック類	破碎施設（固定式）	2
	破碎施設（移動式）	14
がれき類	破碎施設（固定式）	5
	破碎施設（移動式）	6
木くず	破碎施設（移動式）	6
	破碎施設（固定式）	2
最終処分場	遮断型	1
	安定型	3
	管理型	5
合 計		51

（平成25年3月31日現在）

2 処理施設の処理実績

平成24年度の市内の産業廃棄物処理施設による産業廃棄物の処理実績は以下のとおりです。

表7-2-2 最終処分場処分実績

最 終 処 分 場				処分実績	
種類	設置事業所	埋立面積 (m ²)	埋立容量 (m ³)	処分量 (m ³)	残存容量 (m ³)
遮断型	三井金属鉱業(株) 三池事務所	945	4,620	0	1,655
	三西開発(株)	15,262	17,613	0	13,494
安定型	三西開発(株)	1,000	5,400	0	3,239
	(株)クリーンアトラス	11,289	90,000	0	0
管理型	三西開発(株)	39,112	571,000	4,782	424,178
	三西開発(株)	65,900	233,130	315	4,994
	三西開発(株)	15,600	68,279	0	1,798
	三西開発(株)	9,108	78,000	0	2,145
	電気化学工業(株)	176,000	616,000	17	51,638
合 計		334,216	1,684,042	5,114	503,141

（平成24年度実績）

表7-2-3 中間処理施設の処理実績

処理物	中間処理施設			処理実績 (t)		
	施設名称	設置事業所	処理能力	処理前	処理後	
汚泥	脱水施設 (移動式)	(有)岩藤清掃	40 m ³ /日	0	0	
		(有)岩藤清掃	144 m ³ /日	0	0	
		(株)環境施設	47.6 m ³ /日	0	0	
		共栄環境開発(株)	72 m ³ /日	0	0	
	脱水施設 (固定式)	オーム乳業(株)	13 m ³ /日	19,538	1,396	
		三西開発(株)	180 m ³ /日	24,488	6,297	
		三西開発(株)	209 m ³ /日	21,244	6,945	
		ダイスタージャパン(株)	85 m ³ /日	2,912	1,266	
		三井化学(株)	960 m ³ /日	0	0	
		三井金属鉱業(株) 三池レアメタル工場	54 m ³ /日	35,034	6,218	
		焼却施設	日本コークス工業(株)	61 t/日	20,219	1,467
	三井化学(株)		95.1 t/日	13,707	7,228	
	廃油	油水分離施設	喜楽鉱業(株)	134.4 m ³ /日	3,912	547
		焼却施設	三西開発(株)	140 t/日	361	0
三西開発(株)			10 t/日	0	0	
廃プラ	破碎施設 (固定式)	柴田産業(株)	118.8 t/日	756	756	
		(株)高野環境	96 t/日	5,954	5,954	
がれき類	破碎施設 (移動式)	(株)磯部	432 t/日	0	0	
		(株)磯部	1,400 t/日	0	0	
		(株)環境施設	1,320 t/日	0	0	
		(株)協和工業	1,080 t/日	0	0	
		(株)建光	1,440 t/日	0	0	
		コガ信工業(有)	520 t/日	0	0	
		(株)三和興業	1,280 t/日	0	0	
		大建工業(株)	680 t/日	0	0	
		(株)東洋ビルド	1,320 t/日	0	0	
		(株)中尾産業	680 t/日	0	0	
		(株)ニシケン	160 t/日	0	0	
		(株)ニシケン	1,040 t/日	0	0	
		(株)ニシケン	1,040 t/日	0	0	
		(有)豊解体工業	1,080 t/日	0	0	
		(有)吉田開発	680 t/日	0	0	
		破碎施設 (固定式)	三新興産(株)	640 t/日	39,869	39,869
	柴田産業(株)		15.3 t/日	1,535	1,535	
	柴田産業(株)		169.6 t/日	537	537	
	(有)萬葉		280 t/日	36,926	36,926	
	三井住建道路(株)		320 t/日	13,592	13,592	
木くず	破碎施設 (移動式)	(株)環境施設	112 t/日	0	0	
		共栄機械工事(株)	160 t/日	0	0	
		コガ信工業(有)	528 t/日	0	0	
		(株)セイシン	440 t/日	0	0	
	破碎施設 (固定式)	大東商事(株)	7.64 t/日	0	0	
		ホクザイ運輸(株)	120 t/日	0	0	
		ホクザイ運輸(株)	160 t/日	0	0	
		(有)徳重産業	308 t/日	3,734	3,734	
(有)萬葉	13.7 t/日	417	417			

(平成24年度実績)

第3節 産業廃棄物処理業者

産業廃棄物の処理を業として行おうとする者は、業を行おうとする区域を管轄する都道府県知事（政令で定める市にあっては市長。福岡県の場合、北九州市、福岡市、久留米市、大牟田市）の許可が必要です。しかし、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令の一部を改正する政令」の施行により、平成23年4月1日から収集運搬業の許可が合理化され、県知事の許可のみで県内全域の収集運搬が可能となりました。よって、既に福岡県と大牟田市の両方の許可を有している事業者については、大牟田市の許可が失効することとなりました。

1 産業廃棄物処理業許可業者数

収集運搬業の許可の合理化によって、市内の収集運搬業許可業者数が大幅に減少しました。平成25年3月31日現在139業者で、23年（817業者）の83%減となっています。

処分業許可業者数は、中間処理44業者、最終処分1業者で大きな増減はありません。

表7-3-1 産業廃棄物処理業許可業者数

業 区 分	許可業者数					
	H21	H22	H23	H24	H25	
収集運搬業	産業廃棄物	631	647	665	137	101
	特別管理産業廃棄物	158	152	152	48	38
	計	789	799	817	185	139
処分業（中間処理）	産業廃棄物	41	42	43	42	41
	特別管理産業廃棄物	4	4	4	4	3
	計	45	46	47	46	44
処分業（最終処分）	産業廃棄物	1	1	1	1	1
	特別管理産業廃棄物	0	0	0	0	0
	計	1	1	1	1	1

（平成25年3月31日現在）

2 処分業者の処理実績

市内の中間処理業者によって、24万1千トンの産業廃棄物（内特別管理産業廃棄物8万1千トン）が中間処理されました。廃棄物の種類別に見ると、がれき類の破碎が8万5千トンで最も多く、以下、汚泥の脱水4万5千トン、汚泥の焼却3万3千トンと続いています。

また、最終処分業者によって6千トンの産業廃棄物が最終処分（埋立処分）されました。

表7-3-2 産業廃棄物中間処理量

中間処理の種類		取扱量 (t)
処理対象物	処理方法	
汚泥	脱水	45,732
	焼却	33,216
	溶鉱炉製錬	10,392
	その他	5,209
廃油	油水分離	3,912
	焼却	264
	その他	0
廃酸	中和	372
	その他	83
廃アルカリ	焼却	4,422
	その他	751
廃プラスチック類	破碎	6,561
	圧縮	2,163
	水溶化分離	4,582
	その他	263
木くず	破碎	11,247
	焼却	759
	その他	134
ガラスくず等	破碎	9,739
	溶鉱炉製錬	1,502
	その他	102
鉱さい	溶鉱炉製錬	1,071
	選別	0
	その他	273
がれき類	破碎	85,210
	選別	0
	その他	796
ばいじん	溶鉱炉製錬	4,910
	その他	11
混合廃棄物	破碎	1,448
	焼却	1,075
	圧縮	1,170
	その他	1,978
その他	その他	2,488
合 計		241,835

※汚泥中間処理（脱水）は、脱水をする前の量

(平成24年度実績)

表7-3-3 特別管理産業廃棄物中間処理量

中間処理の種類		取扱量 (t)
処理対象物	処理方法	
汚泥	溶鉱炉製錬	13,309
廃油	焼却	96
廃酸	中和	3,337
廃アルカリ	中和	133
	焼却	0
鉱さい	溶鉱炉製錬	2,385
ばいじん	溶鉱炉製錬	62,455
燃え殻	溶鉱炉製錬	1
感染性廃棄物	溶鉱炉製錬	0
合 計		81,716

(平成24年度実績)

表7-3-4 産業廃棄物最終処分量

処理対象物	取扱量 (t)
汚泥	4,664
がれき類	796
ばいじん	11
廃プラスチック類	82
金属くず	2
燃え殻	3
ガラスくず等	31
合 計	5,589

(平成24年度実績)